

REALLY GREAT SITE

応用編 1

PRACTICE GUIDE

1 オリジナルを作りたい

化粧品でオリジナル製品を作りたいならOEMという方法があります。化粧品を製造して販売することのできる事業者に依頼して、自分のブランドとして販売するものです。

3 化粧品を製造できる事業者、販売できる事業者

化粧品の製造、製造販売には都道府県の許可が必要です。この許可は一定の基準をクリアして申請することによって得られる許可です。「化粧品製造業許可」は化粧品を作ることができる許可、「化粧品製造販売業許可」は化粧品を市場出荷（販売）できる許可です。「製造業許可」では市場出荷はできず、「製造販売業許可」では製造はできません。したがって製造業事業者が製造して製造販売業者へ引き渡し、製造販売業者が市場に出荷、OEMの場合は発売元に納品して製品は世に出ます。

5 製造ロット、最小ロットとは

OEM製造では依頼できる最低ロットがあります。最低ロットは事業者によりますが数千個から万の単位となることがあります。数千、数万個のロットは小規模な事業者にとっては多すぎる数量です。販売に時間がかかり、製品の長期保管（在庫）による製品の劣化も予想されます。この最低ロットを低く請け負う事業者を探したいものです。最低ロットの違いは製造業者の設備の大きさによるものです。

2 OEMとは

化粧品を販売するにはその製品が正規の「化粧品」でなければならないので、友人が趣味でつくったものや外国で買ってきた現地製品をそのまま「化粧品」として売ることはできません。

4 製造業許可、製造販売業許可を取る

製造業許可、製造販売業許可は都道府県に申請し、事業所の検査や専任者の適格性、事業の運営体制などが審査され、都道府県知事から許可されるものです。

この許可の取得のためには製造所、事務所など実際の施設や設備が必要です。またそれぞれ専任者の適格性や一定の知識経験が見られます。これらの許可の取得を考えるのなら専任者の予定、工場、事務所、設備の手配などのために相当の準備期間が必要です。

たとえば固形石けんの場合大手製造所の設備は一度に100キロ、200キロを製造する規模ですが、このような設備をもたない事業者は製造単位が10キロくらいになります。たとえば石けんの製造の場合原材料10キロから100個程度の石けん（製造方法によって違いがあります）ができます。製造業者の設備が10キロであれば1回に100個程度の石けんが製造できます。この設備が100キロであれば1000個程度の石けんが作れます。ここで製造業者による最低ロットの違いがでできます。



REALLY GREAT SITE

応用編 2

PRACTICE GUIDE

6 製造方法の違い

化粧品には種類によってさまざまな製造方法があります。たとえば固形せっけんの場合原料を高温で処理する釜焚き製法や加熱せずにするコールドプロセス製法などがあります。この違いによって出来上がるせっけんの質の違ってきますし、製造できる分量（ロット）も釜焚きが大量に処理できるのに対してコールドプロセスの場合は少量です。このように製法には処理温度や分量などの特徴があり、使用する原料や製造施設、時間などの違いがでてきます。ですから化粧品開発の場合にはその製品に適した製法を検討選択するべきです。

8 製造コストを分析する

化粧品製品のコストは主に：

- ・ 原材料
- ・ 製造の手間
- ・ 包装、表示などの資材、その制作費
- ・ 送料や荷造りの手間

そして製品の開発にかかる費用や時間のコストです。

原料コストは原料の質やグレードによって変わってきますが、特に原料コストにインパクトを与える原料には次のようなものがあります。

7 コールドプロセスせっけんの製造分量（ロット）

石けんのコールドプロセス製造は小規模単位のほうがしやすく手作りコールドプロセス石けんですと10キロ程度の単位で50グラムくらいの石けん100個程度となります。逆にそれ以上の数は一度の製造ではできません。このことから小規模製造業者の場合は製造量が増えても単価があまり下がらないことがあります。製造回数が増えて手間がかかるためです。

9 精油（コストを上げる）

香り付けには精油は少量で他の原料に匹敵するコストになり単価を押し上げます。製品に配合しても時間とともに香りが飛んで消えていきます。香りで製品の特徴をつけたいと考えがちですが、コストを考慮して判断すべきです。



応用編 3

PRACTICE GUIDE

10 希少な油（コントロール可能）

せっけんには油（油脂）が使用されますが、油の種類によってコストが数倍異なることもあります。また同じ油でもオーガニックを指定するとコストが増します。この場合は油の組み合わせの比率によってある程度コストをコントロールできます。美容オイルやバーム、チークといった製品は比較的小容量なので使用する原料も少なくなります。こちらも原料にこだわるとその分コストが数倍になって変わってきます。

11 包装材（簡素化の傾向）

化粧品のコストで意外に大きな割合を占めるのが容器と包装です。よく化粧品は容器を買っているとされるほど見栄えの良い高い容器やきれいな箱のコストは製品コストの多くを占めます。化粧品が本体以外の容器、包装、印刷などにコストが使用されている場合、それが事業のコンセプトに合っているか考えてみることも必要です。必要最低限の資材とシンプルな包装で製品がかえってシンプルで魅力的に見えることもあります。また、製品の容器や資材にはエコの考え方が取り入れられてきて、過剰な包装やゴテゴテした容器は今後避けられていくようです。一部ヨーロッパなどではプラスチック容器が紙容器に入れ替わっていく動きがあります。

12 開発から販売まで—製造期間

シンプルなコールドプロセスせっけんであっても、もともと製造に2ヶ月以上かかるうえに試作や開発、資材や表示、デザインなどの工程をみると6ヶ月から1年かかっても不思議ではありません。製品開発ではこの期間を考慮して、リリース時期を想定しておきます。要は今シーズン販売したいものは今作れない、来シーズンのものを作ると考えておけばよいと思います。製品別の開発、製造期間の一例をまとめます：

石けん（コールドプロセスの場合）

開発 8ヶ月 製造 3ヶ月

美容オイル

開発 3ヶ月 製造 1ヶ月

バーム

開発 3ヶ月 製造 1ヶ月

*開発および製造の期間は製造所の稼働状況、季節や天候、原料供給状況などの影響を受けます

13 原料、資材の支給

化粧品製造の全ての原料や資材を製造事業者が用意するだけでなく、依頼者が支給して行う場合もあります。発売元は自ら原料や資材を提供することで、使用したい原料や希望の製品包装、ラベルデザインで製品を作ることが可能です。原料や資材の供給は製造事業者によって受け入れできないものもあるため事前の打ち合わせが必要です。支給された原料や資材についてはコストから除外されることが普通です。

